

東京経済大学報

2019年度 第52巻 4月臨時号



2019年度入学式挙行

コラム

- 教員リレーコラム 私の★研究
- 職員リレーコラム 私の★シゴト
- 学生コラム・留学生コラム ほか

CLOSE UP

- 各分野で活躍した学生を表彰する「TKU進一層賞」

学長メッセージ（抜粋）

東京経済大学に入学された皆さん、おめでとうございます。本学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

本学は来年、創立120周年を迎ますが、今年は大倉高等商業学校・大倉経済専門学校から東京経済大学へと昇格してからちょうど70年という節目の年に当たります。大学昇格は学生、卒業生、教職員全員の悲願であり、学生による寄付活動に象徴されるように全学の一一致協力によって達成されたものでした。

それ以降、本学は他のどの大学よりも「大学らしい大学」となることを目標にして今日までやってきました。「大学らしい大学」の内容を一言で述べると、自由な学問研究を支えとして質の高い教育を行うことであり、この理念を透明性の高い大学の民主的運営によってしっかりと支えることです。

皆さんは、今日から「大学らしい大学」を目標に、何よりも学園の自由な雰囲気を大切に守ってきた「自由の学府」東京経済大学で学ぶことになります。確かな知識を身につけ学問の基礎を学ぶうえで正課の授業が大切です。同時に、皆さんの行動力、協調性と柔軟性、忍耐力と責任感を養ううえで課外活動も重要です。私は皆さんに心身を鍛える体育会系クラブや仲間とともに興味ある分野について打ち込める文化系サークルに参加されることを勧めます。クラブ、サークル、ゼミやクラスで友人をつくり、いろんなことを語り合って下さい。「友との語らい」は皆さんの人間的広がりと豊かさをつくります。

何かを学びたいという学生の意欲、若い学生にこれだけは伝えなければという教師の使命感。この二つの魂の出会いこそ、大学教育の原点なのです。今日のような「大転換の時代」にあっては、まさにこのような原点が重要なのです。

どうか皆さん、「自由の学府」東京経済大学にて「生涯の師」を見つけて下さい。

2019年度 入学式挙行!!

総勢1,583名の新入生(編入学・学士入学・
大学院等を含む)を招え、岡本英男学長が、
入学式に臨みました。



学長 岡本 英男 (おかもと ひでお)

2019年度 大学役職者から 新入生へのメッセージ

経済学部長

南原 真
(なんばら まこと)



皆さんが是非充実した日々をすごせるよう頼っています。大学では部活やサークル、2年次からはゼミに入り友達を作りましょう。長い休みには旅行、アルバイト、ボランティアなどを通じて見聞を広めてください。



副学長

竹内 秀一
(たけうち ひでかず)

4年間=1,461日=35,064時間。「時は金なり」ですので、この時間を有効に利活用してください。大学での4年間は長いようで短く感じられると思います。

充実した4年間となることを祈念いたします。



経営学部長

青木 亮
(あおき まこと)

自分が夢中になれるを見つけてください。世界が広がります。また大変でも、自分の頭で考えて行動するように心がけましょう。

最後に、大学時代はいろいろな意味で自由が広がります。自由には責任が伴うことを自覚してもらえばと思っています。



副学長

岸 志津江
(きし しづえ)

自動車を買わずにシェアしたり、A.I.の勧める服を借りたりできる時代になりました。急速な技術革新の波に飲み込まれず、自分らしく生きるために、大学では一生学び続ける好奇心と行動力を培ってください。



コミュニケーション学部長

柴内 康文
(しばない やすふみ)

コミュニケーションのあり方の大きな変化が社会で進む現在は、まさにそれについて学び、理解を深める絶好のタイミングだと思います。

ともに学び、また作りあげていくなかで大きく成長されることを心から願っています。



現代法学部長

羽貝 正美
(はがい まさみ)

大学は自分を成長させるための学びの場であり時間です。自分を鍛え、社会に出ていくための準備の時間ともいえます。様々な学びと多くの出会いを通して社会への目を開き、自分自身の可能性を広げる豊かな4年間としてください。



法学部長

新正 裕尚
(しんじょう ひろなお)

18歳の頃を振り返るとああしておけばよかつた、ということばかりで、皆さんにあれこれお説教をしてしまいそうです。でもそんな年寄りのお説教を聞くよりは、失敗を恐れず、自分で思うところをやってみてください。



図書館長

徐 京植
(そ きょんしょく)

新入生のみなさんが誇りにしてよいものの一つが本学の図書館です。建物もカッコイイのですが、もっと大切なことは蔵書の充実ぶり。大学生になってこれを活用しないのは惜しい。

いま本を読んでおくと、一生の宝になりますよ。

2019年度 新任教職員紹介

★主な担当科目(教員のみ) ◆趣味・特技 ■東経大での抱負 ※敬称略

経済学部



特任講師
パイプ ジェイソン
(Pipe Jason)

★英語プレレッスン、論文作成など
◆①英語コミュニケーション②海外旅行③音楽④写真
■学生が外国に行っても英語で自分を表現することに自信を持てるようにする



特命講師
藤井 博
(ふじい ひろし)

★キャリアデザイン入門・発展・実践、経済学部女子のキャリアを考える
◆楽器演奏(Bass, Piano)、作曲
■東経大の皆さんユニークな「進一層」と、未来を切り拓く力の種となる経験を、様々な機会を通じてサポートしていきたいと思います。

現代法学部



准教授
山本 紗知
(やまもと さち)

★行政救済法、環境問題と法など
◆旅行、散歩
■受講生やゼミ生たちとともに学ぶことを楽しんでいます。
これからどうぞよろしくお願いします。

コミュニケーション学部



客員教授
板谷 和代
(いたや かずよ)

★キャリアデザイン・ワークショップⅢ・V・VI・VII、ジェンダーとキャリア形成
◆元気の種まき
■企業での経験を活かし、一人ひとりが“自分の強みに気づき、自信を持って他者の役に立てるキャリアを歩む”。そんな「自立型人材」を育むことに精一杯がんばります。



教授
田村 和人
(たむら かずと)

★コンテンツ産業論、メディア制作ワークショップなど
◆ネコ飼育、ダイエット
■日本テレビに35年間勤め、番組制作やインターネットビジネスに携ってきました。この経験を授業やゼミに活かしていきます。学生たちと互いに刺激しあいながら楽しく授業を進めたいと考えています。



特命講師
金杉 朋子
(かなすぎともこ)

★日本語ワークショップ、コミュニケーションワークショップ、キャリア(文章表現)基礎講座、キャリアデザインワークショップ、メディア制作ワークショップ
◆趣味：海を見てボーッとする、読書、子供と笑う
特技：天体観察
■高校で「倫理」を22年教え、「自分について考える」授業をしてきました。「自分」について考え、それを皆の前で表現するという事を通して、自分を知り、他者を知る機会を提供できたらと思っています。その上で自分をどう社会にいかしていくか一緒に考えていくたいと思います。



教授
中村 忠司
(なかむら ただし)

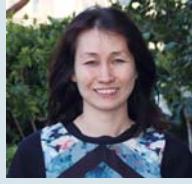
★国際観光論、データ分析ワークショップ、経済記事の読み方
◆食と旅、現代美術鑑賞
■観光を学ぶには、座学だけでなく現場を見ることがとても大切です。学生には学外(特に海外)で異文化コミュニケーションを体験させたいと思います。

全学共通教育センター



客員教授
寺中 誠
(てらなか まこと)

★人権論
◆情報機器等のネットワークの構築、サーバセキュリティなど
■刑務所の話が主たる関心領域なのですが、最近AIの「人権」に興味が出ています。人間以外に人権が考えられるのか?といった疑問を一緒に考えてみたいと思っています。



特任講師
トウンチャイ ステファニー
(Stephanie Tunçay)

★英語コミュニケーション、TOEICなど
◆映画鑑賞、読書、フランス語
■学生たちに英語、外国語を学ぶ楽しさを知ってほしいです。間違いがあってもいいので、自分から進んで話す力をつけるお手伝いをしたいと思っています。



特任講師
堀口 優子
(ほりぐち ゆうこ)

★英語コミュニケーション、総合英語セミナーなど
◆ピアノ、読書、旅行
■初めて英語を習った時、「発音いいね」と先生に褒められて、英語が大好きになりました。東経大生にも英語が大好きになって多くを身につけてもらえるように楽しく有意義なクラスにしていきたいと思います。

職員



専任職員
鈴木 七海
(すずき ななみ)

◆散歩、テレビ体操
■学びの場をより良いものにしていくために、微力ながらも精一杯頑張りたいと思っております。
どうぞよろしくお願ひいたします。



学習センターへ行ってみよう

新入生はもちろん、全学生が利用できる学習センター（6号館2階）を活用しよう！

学習センターでは…

① 自習ができます（9：00～20：00）

一人で静かに自習できるスペースとみんなで話し合いながら課題に取り組めるスペースがあり、自由に利用できます。17時までは、窓口でノートPCを借りて使用することもできます。

② 相談ができます

なんでも
相談

相談したいことがあれば、まず受付カウンターの学習センター職員（インテーカー）に声をかけてください。相談内容に応じて最適な相談相手を紹介します。（9：00～17：00）

英語学習
相談

英語学習アドバイザーに検定対策や留学等、英語学習に関するこことならなんでも相談できます。1対1または友人と一緒に英会話の練習することもできます。予約優先。（10：40～16：50、1回30分）

学
相
習
談

10人の専任教員相談員が週1コマずつスタンバイしています。授業の不明点や学習の進め方、レポートの書き方等、家庭教師のように気軽に相談できます。窓口で予約してください。



曜日	時限	教員相談員	対応分野
月	2限（10：40～12：10）	竹内 秀一 先生	SPI、データ分析（データサイエンス）
	2限（10：40～12：10）	永下 泰之 先生	法律関係
	4限（14：40～16：10）	中村 翼郎 先生	英語、日本語（レポート・作文）、SPIの基礎
火	2限（10：40～12：10）	神納 樹史 先生	財務会計科目・資格、会計PP
	3限（13：00～14：30）	新正 裕尚 先生	簡単な数学、文章添削、SPI
	4限（14：40～16：10）	相澤 伸依 先生	人文系科目、語学、文章の書き方
木	2限（10：40～12：10）	淨土 渉 先生	経済学
	3限（13：00～14：30）	小木 紀親 先生	マーケティング
	4限（14：40～16：10）	石川 雅也 先生	経済学
金	3限（13：00～14：30）	北山 聰 先生	情報産業・IT系



③ 講座・イベントに参加できます

昼休みや夕方に、講座やイベントを年間約80回開催しています。ノートの取り方、レポートの書き方等のスタディスキルズの講座、英語を楽しく学べる講座、TOEIC対策やSPI対策等、積極的に参加しましょう。昼休みの講座は昼食を持ち込んで食べながら参加できます。窓口で予約してください。



④ KIHACHIRO文庫が利用できます

図書館とは重複しないような、入門・基礎的な本、図解、図説、早わかり等、気軽に読める本を中心に約4000冊揃えています。2週間単位で貸し出しましょです。気軽に利用してください。



私の★研究

現代法学部 教授

西下 彰俊



『私のキャリア・シフトと研究の展開』

私の★シゴト

学生支援部長

堺野 正一

『振り返つて思つこと しきつかけは些細なことがらはじまる』

大学では社会福祉学科に入り社会福祉全般を勉強したが、理論社会学のゼミに入り、デュルケームやマートン等社会学の古典を読んだ。マックスウェーバーを研究するゼミの先生は、家族社会学の授業も担当していた。講義ノートを忘れたと言つてそのまま休講にするような不思議な先生であったが、その先生が授業中に回した五十嵐文夫の「孤老」(合同出版)を見たことが、その後の私の研究方向を決めるきっかけの一つとなつた。一九七六年の話である。

学部の卒業論文も大学院の修士論文

も老年社会学の視点に立ったテーマを選んだ。当時老人といえば福祉サービスの対象という見方が一般的であったが、私は社会学の視点から高齢者を社会の主体と位置づけることの重要性を痛感していた。そうした視点のユニークさが評価していただけたかどうかは不明であるが、板橋区大山にある東京都老人総合研究所社会学部社会研究室の研究助手として二七歳で採用された。

三二歳で神戸山手女子短期大学家政学科の専任講師として採用され、社会福祉論、家族論、生活文化論を担当した。教師稼業のスタートである。三年間勤務した後、名古屋の金城学院大学文学部社会学科に助教授として採用され、家庭社会学、社会調査法を担当した。数年後当時の大学執行部から、併設の短期大学を廃止し新学部を設立しその中に福祉系の学科を設置するので、準備委員になるようにと依頼を受けた。準

設置認可された福祉社会学において小生は高齢者福祉論、老年社会学を担当することとなつた。

同学科の完成年度を迎える前に、スウェーデン・リンショーピン大学テーマ研究所に留学できるチャンスを得たので、四三歳で一九九八年夏から一年間単身赴任で留学した。同研究所の受け入れ教授が当時老人総合研究所と交流されていたことがきっかけとなり私の留学が実現し、ホストファミリーになつていただいた。

リンショーピン市の介護施設の様子を一年間継続的に研究する機会を得たことが、スウェーデンを含めた北欧の介護施設に共通する構造的な問題への気づきにつながつた。短期視察では決して分からぬ影の部分に焦点を当てることができたのである。自分でアポ取りをしながらスウェーデン国内の政府機関、市役所や介護施設でインタビュー調査をするアプローチは当時から現在まで続けている。

四八歳で本学現代法学部に着任以来、一六年目。現在の私の研究は、スウェーデンだけでなく、韓国、台湾と射程を拡げることになつた。これらの国々の介護政策や施設でのケア実践を、光と影という両面から社会学的に分析するという特徴は今も全く変わっていない。これからもこのスタンスを基軸に研究を進化発展させていきたい。

次号は・・・現代法学部

野村 武司先生です。

人は働くに生きていくのか。大多數の人は、二〇歳前後から仕事を始め、六〇歳台まで働き、その後、退職金預金、年金等で生活していく。仕事を意識するのはいつ頃からだろうか。私の子ども時代は、男の子はスポーツ選手や、パイロット、医者、芸能人、女の子はケーキ屋さんやお花屋さん、お嫁さん、アイドル、女優に憧れ、夢を抱いていた子が多くいた。しかし、近頃はすごく現実的で、公務員、サラリーマン等が上位になっているらしい。また、世の中(経済環境や景気動向、産業構造、技術革新、社会環境等)は大きく変化するので、サラリーマンであつても、会社の倒産、失業、転職等を余儀なくされることが多い。

職員★リレーコラム 第6回

『振り返つて思つこと しきつかけは些細なことがらはじまる』

人は働くに生きていくのか。大多數の人は、二〇歳前後から仕事を始め、六〇歳台まで働き、その後、退職金預金、年金等で生活していく。仕事を意識するのはいつ頃からだろうか。私の子ども時代は、男の子はスポーツ選手や、パイロット、医者、芸能人、女の子はケーキ屋さんやお花屋さん、お嫁さん、アイドル、女優に憧れ、夢を抱いていた子が多くいた。しかし、近頃はすごく現実的で、公務員、サラリーマン等が上位になっているらしい。また、世の中(経済環境や景気動向、産業構造、技術革新、社会環境等)は大きく変化するので、サラリーマンであつても、会社の倒産、失業、転職等を余儀なくされることが多い。

仕事が楽しくて、多くの稼ぎがあるのは望ましいかもしれないが、必ずしも自分の思うようにはいかない。自分自身の選択を信じ、前に進むしかない。それ以上に大切なことは、様々な環境への変化に対応していくことだと思つていて。失敗しても親や他人に責任転嫁してはいけない。多くの人は生きるために、働くが、それは自分のためであり、家族のためでもあり、社会に繋がつていて。

働く上で大切にしてきたのは、人間関係を重んじ、先ずは挨拶すること、そして、自分自身を信じ、自分の考えを伝え、与えられたことだけではなく、何事にも一生懸命に取り組むことだ。その結果として信用を得ることができれば、幸いだと思っている。

次号は・・・図書館副館長

関 達朗さんです。

『振り返つて思つこと しきつかけは些細なことがらはじまる』

色々あつたが、偶々家の近所に大学職員の家族が引越してきたことを思い出した。そのことがなければ、恐らく大学職員という職種には気がつかないままだったろう。加えて大学にこれも偶々掲示してあった求人票だ。それを見て、一気に私の中で大学職員という選択肢が大きくなつた。しかし、仕事の内容が良くなつていただいた。





『出会ことつなげの人たちとのつながり』

新入生歓迎実行委員会
委員長 安部 一壽也
経済学部4年



『私の日本での楽しい経験』

リカチャヨウ
李 嘉暢
コムニケーション学部2年



学生コラム

今後四年間を過ごす大学生活への大きな期待と少しの不安を胸に入学式に臨んだことを昨日のことのように覚えていました。大きな期待といっても、その頃の私が持っていた大学生活への考えは漠然としたもので、今でこそ新入生歓迎実行委員会で委員長として活動していますが、その当時は具体的な夢や目標があるわけではありませんでした。そんな私ですが、入学式でのある出来事を期に大学生活への夢ができ、今では「いつして学生コラムという形で皆さんにその経験を知つてもらうという機会を頂戴することができるまでになりました。今回お話しするのは、私を変えた入学式での出来事と、大学生活で皆さん是非やってほしいことの二つです。拙い文章ですが、最後までお付き合いいただけ幸いです。



新入生歓迎の辞。入学式の式次第に書かれたその言葉が読み上げられるごとに、スーツ姿の女性が参列者の席の中から登壇し、堂々とした姿で話し始めました。その頃の私は周りに大学生の知り合いもいなかつたためか大学生に対しては楽しく遊ぶものだという偏ったイメージしか持ち合わせておらず、まさか入学式に学生代表が歓迎の辞を読むことがあるのかと驚いたとともに、そのかっこいい姿に憧れました。

そこで私のなりたい自分を見つけ、四年生になつたら今度は自分が新入生に道を示し、目標としてふさわしい先輩になれる大学生なると決意しました。それが今の私の大学生活における固い基礎となりました。

そしてその先輩は大学生生活では「出会い」を大切にしてほしいと言いました。

様々な人との出会いやつながりを持つためにぜひ皆さんには勇気を出して自分から声をかけて、大学生活をより豊かなものにしてほしいと思います。私自身もそうして出会つたたくさん的人に支えられ、衝突もし、励まし合つことで仲間とともに成長し、今の自分がいます。一人ではできないことも、仲間と一緒にすれば乗り越えることができる。応援してくれる人がいるから頑張ることができます。そしてあなた自身もかけがえのない存在としてきっと誰かにとって大きな存在になることができると思います。それほど素敵だと思います。

最後になりますが、学生とは「学び、生きる」と書きます。その言葉通り、大学生活で自分の関わることすべてが学びと成長につながっています。たくさんの出会いと学びを経験して、みなさんが充実した大学生活を過ごされたいことを願つて本稿を締めくくりたいと思います。

留学生コラム

た。

東京経済大学に入學してからいろいろなことがあった。友人ができる、アルバイトをし、単位もしっかりと取つた。又吉直樹の「火花」に出てくる喫茶店で珈琲を飲んだ。井の頭公園に行って、晴れ渡る空の下で池を眺め、新鮮な空気を吸つた。国際交流課の企画で群馬の草津に旅行へ行って、他の留学生、在校生と親睦を深めた。

古本屋を巡つて、大正時代の稀覯本を手に取つて、国分寺の殿ヶ谷戸庭園で雪を踏み、国分寺崖線に沿つて流れる野川で桜の開花を待ちわびた。中古レコード屋で買ったレコードプレイヤーでブルーススプリングスティーンを流した。東京国立博物館で顔真卿の書体を見て文字の可能性が身に染みた。学生同士のボーリング大会ではとても高いスコアを出した。

授業の始まる前に、先生と話している時やコトパーティオでは、生活で注意すること

私が日本に留学しようとした時は、一八歳だった。私は中国からの留学生である。中学の時に日本の文化に触れたことがあり、日本に行こうと決めて、高校を卒業後、日本に来て勉強している。

世界はグローバル社会へと移行している。多種多様な方面で絡み合い、地球はより複雑な仕組みになるだろう。人々は経済や生活、思考において国際化の波から逃れることは出来ない。時には文化的衝突が起きるかもしない。それはビジネスにどうして予想外の壁になり、外交問題に発展するかもしない。異文化理解という言葉があるとしたら、異文化理解はこれから世界の重要な課題になると思う。そうした理由で私は「ミユニカーシヨン」学部を志望した。

を教えてくれるときもある。友人は日本の文化を教えてくれる。大学の図書館は知識の宝庫と思っている。

二年次では、友人と一緒に日本文学を学び、三年次は日本史を学習したいと考えている。



日本に来てから一年半になる。長いよう短かった。私は日本の風景に魅力を感じる。時間があれば、美しい景色がないかと探しに行く。しかし、学生は学業が本分である。一番基本的なことだ。基本的にここには押さえられる学生でありたい。大学の四年間は長い時間であるが、もう一年が過ぎてしまった。大学生活に意味を持たせるように、無駄に大学の時間を費やすないと心掛けている。学ぶことは山を登ることである。山登りの時は、水と食べ物を用意する。大学での学びも同じである。いろいろなものを用意しておくべきである。人生には多くの登らなければならぬ山があると私は考えている。

【音楽が好きだ】

音楽が好きだ。よくレンタルビデオ店や中古CDショップで「あ」から「△」まで練り歩く。中高の頃から変わらない趣味の一つだ。レンタルビデオ店の複数枚借りると値引きされ、キヤンペーンには何度もお世話になった。その頃から配信サービスはあったが、お金のない学生にとって一枚一〇〇円二〇〇円で手に入る音楽データには魅力的であった。自分のパソコンにはリッピングし自動で設定されないフリガナを入力、ネットから拾つてきたりヤケ写を付けていった。デジタルデータでも自分のライブラリーには愛着があった。

大学生になってCD屋でアルバイトを始めた。お金が幾らか入るようになつてフィジカルリースされたものをコレクションしていく。CDはモチロン、七インチなどのバイナルも集めめるようになった。フィジカルなもので聞く方がじっくり楽しめる。ジャケットを見ながら、歌詞を見ながら、ライナーノーツを見ながら、アルバムを堪能できる。そんな気がした。

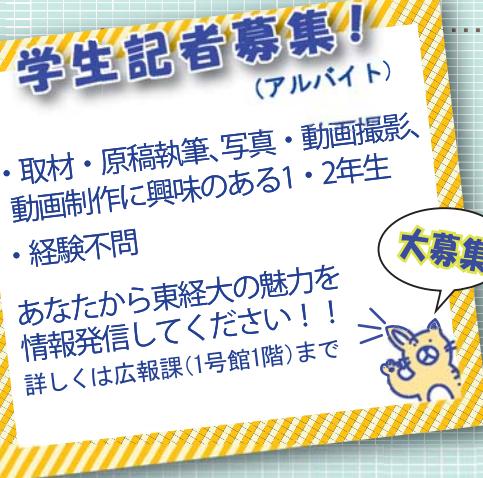
時代はダウンロードの時代からストリーミングの時代へ移り変わる。より安く、もっと簡単に好きな音楽へ出会うことができるようになった。その音源を買わざとも、月々幾らか払えば、所有している音源かのように自分のライブラリーで表示することが出来る。しかししながらメーカーの都合で配信停止になつた場合は聞くことが出来ない。結局、自分のものにはなっていないのである。たまに「CD買うの?」と聞かれることがある。僕は今でもCDを買う。

学生記者の視点

配信でデータも買う。ストリーミングはCD屋の視聴機のように、いろいろモノを聞くために使う。ストリーミングで聞いた後に気になったらCDを購入することもある。それのメディアを年表に並べ、フィジカルなメディアは昔のもので、データこそが今のメディアであるという風な表現をされることが多々ある。そういう側面があることも確かであるが、もっと横並びに捉えてみると、確かに良いように思える。フィジカルなメディアは聞くまでに手間がかかることがあるが、飾つておくことが可能であるなどモノとして持つておけるといふことに特徴があり、デジタルなメディアはすぐに手に入れることでできるといった容易さに特徴がある。

音楽を楽しむ手段が増えた中で様々な音楽に注目が集まるることは良いことであり、自分もその一人であるが、それのメディアの特徴を生かした、より新しいものの売り方や音楽への出会いを考えてみたいと思う。

濱田 貴浩
経営学部4年



大倉記念学芸振興会より

学術講演会

「ダイヤモンドから見る地球内部」

東京大学大学院理学系研究科教授
東京大学アイソトープ総合センター長

鍵 裕之 氏

開催日 2019年6月15日(土)
2号館 B301 教室

芸術公演

「フルートと室内楽のしらべ」(仮)

フルート奏者・国立音楽大学教授

大友 太郎 氏 ほか

開催日 2019年7月20日(土)
大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)

芸術公演

「山中信人 津軽三味線の世界・和太鼓との響」

津軽三味線奏者 山中 信人 氏 ほか

開催日 2019年10月12日(土)
大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)

学術講演会

「日本林業の可能性」

速水林業代表・森林再生システム代表取締役社長
日本林業経営者協会会長

速水 亨 氏

開催日 2019年11月30日(土)
2号館 B301 教室

芸術公演

「八代目 春風亭柳橋 独演会」

落語家・本学卒業生 春風亭柳橋 氏

開催日 2020年2月22日(土)
大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)



TOPICS

大学Webサイトに掲載されたニュースの中から厳選した話題をご紹介！

掲載日	タイトル	概要	実施日
1月29日	120周年記念留学支援折元奨学生、奨学生決定！	2019年9月よりペース大学（アメリカ）へ留学する経済学部2年生に決定	1月29日
2月6日	ボランティアサークル Clover が国分寺消防署と協定を結ぶ	大規模災害に対する備えを国分寺消防署と共に進めていく	1月31日
2月18日	石川雅也ゼミが日経ストックリーグで入選	今年は2チームが入選 6年連続入選達成	
3月13日	安城記念奨学生「奨学生証」授与式を開催	難関資格・国家資格に挑戦する2名の学生に奨学生証を授与	3月12日
3月22日	佐々木裕一コミュニケーション学部教授がテレコム学会科学賞受賞	著書『ソーシャルメディア四半世紀 情報資本主義に飲み込まれる時間とコンテンツ』で受賞	
3月23日	2018年度卒業式挙行	学部、大学院あわせて約1500名が新たな道へ	3月23日
4月4日	2019年度新入留学生歓迎会を開催	本年度本学に入学した留学生と先輩留学生や教職員、国際交流チーフターが参加	4月3日

CLOSE UP

2018年度「TKU進一層賞」表彰式行われる

「TKU進一層賞」は、「学芸」「資格取得」「課外活動」「ゼミ活動」の4つの分野で活躍した学生を表彰する本学独自の制度で、今年度は600を超える個人、団体が表彰されました。2019年3月8日(金)の表彰式で挨拶に立った岡本英男学長は「本日受賞される皆さんには卒業後もこの賞に誇りを持ち、高い業績と人間性・倫理観を両立した人間を目指してほしい」と受賞者を激励しました。新年度を迎え、学生の皆さんには所属団体の活動やゼミでの取組みが、TKU進一層賞につながるよう挑戦することも大学生活の目標のひとつにしてみてもよいのではないでしょうか。

